

送辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、草木もようやく長い冬の眠りから目覚め、命の息吹が感じられる今日、この佳き日、この学び舎を巣立って行かれる先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

先輩方は、今、どのようなことを思い返していらっしゃるでしょうか。お友達との楽しい生活、勉強や部活動の充実した日々。今先輩方の胸の内には登美ヶ丘高校でのキラキラした思い出が満ちあふれていることでしょう。

しかし、そんな中でも、やはり新型コロナウイルスの影響は大きく陰を落としていることと思います。

昨年4月7日に突然、発表された緊急事態宣言。私達の高校生活は一変しました。学校行事は例年通りに行われず、それどころか学校にすら登校できない日々が続きました。先輩方は昨年の4月・5月、自宅で待機されていた時はどのようなことを考えておられましたか？ きっとお友達に会いたい。勉強や部活動を仲間と一緒にしたい。そんな思いを募らせていらっしゃったことと思います。今まで当たり前だったことを、当たり前にしたという思いを抱かれていたことと思います。

私たち下級生もどうしようもない無力感の中にいました。先輩方と活動する時間が刻々と過ぎていく中、むなしく時間だけが過ぎ去っていきます。先輩方のご指導を仰ごうと思っていた体育大会も、部活動で共に目標として掲げていた最後の舞台でさえも過ぎ去ってしまいました。私たちは『なんであの時、もっと先輩方と部活動が出来る喜びをかみしめなかったのだろう』と焦りと後悔の気持ちでいっぱいになりました。私たちは先輩方と練習で汗を流したのも、同じステージに立ったこともたった数ヶ月でした。もっと先輩方に教えてもらいたかった。もっともっと先輩方に甘えたかったです。ようやく先輩方とお会いできたのは6月。例年なら部活動で最後の大会や舞台に臨んでいらっしゃるはずの時でした。結局、私達は先輩方からいろいろなことを教わらないまま部活動や登美高の行事を引き継ぐことになってしまいました。

でも、季節が過ぎた今、私達は先輩方から、確実に、大きなことを教わっていたことに気づきます。先輩方はなら100年会館で行われた文化祭を覚えていらっしゃいますか。拙かった舞台発表ですが、それでも、私達が追いかけたのは、昨年この体育館で拝見した先

輩方の舞台でした。クラス一丸となって、みんなが笑顔で臨んでいらっしやっただけのご様子をとてもうらやましく思っていました。自分たちもそうなりたいと強く思いました。どうしたら先輩方のように、みんなの気持ちが一つになるのか真剣に考えました。脚本も配役も先輩方がなさっていたことを思い出しました。楽しく踊っていらっしやっただけダンスも絶対にしたいと思いました。先輩方はこんなことをなさっていた、そんな思いを抱きながら準備を行いました。戸惑いの中で迎えた文化祭でしたが、「登美ヶ丘高校の文化祭」として認めていただけたでしょうか。

部活動もそうです。私たちは今、先輩方とご一緒できなかった春の大会や舞台に向けて頑張っています。どうしたら良いのか、分からないことがいっぱい、立ちすくんでしまうことがしばしばです。そんな時、「先輩方ならどうなさただろう」と考え、そしてその記憶からヒントをいただきます。先輩方がみんなで力を合わせていらっしやっただけのことを思い出し、あんな姿になりたいと強く強く思います。声を掛けて頂いたこと、ご指導頂いた日々を一生懸命に思い出し、こんな時、先輩方はどんなふうに導いてくださるだろうと心の中で問いかけています。これからも精一杯頑張っていきます。そして春、先輩方が見に来てくださった時に、「それでいいよ」「しっかり登美高生になっているよ」と仰っていただけるならとても嬉しく思うことでしょう。

いよいよお別れの時が参りました。これからの私達 33 期生の一年は、登美ヶ丘高校最後の一年間になります。

35 年間 7852 人の卒業生の方々が愛してやまない登美ヶ丘高校。その最終ランナーが私達 33 期生で良かったと仰っていただけるように、最後まで登美高生らしく、みんなで力を合わせて高校生活を全力で走り抜けていきたいと思っています。

先輩方のますますのご活躍を祈念し、しっかりと登美ヶ丘高校のバトンをお受けしたことを心に刻み、送辞とさせていただきます。

令和 3 年 3 月 1 日 奈良県立登美ヶ丘高等学校 在校生代表

奥村夕莉